



教育文化功労者に梅津幸保氏、産業功労者に増村力氏

公益社団法人米沢有為会は、令和5年6月25日(日)午後2時10分より、4年ぶりに米沢市の伝国の杜大会議室で第10(通算136)回定時総会を開催し、引き続き表彰式を行いました。今年度は2個人にそれぞれ教育文化功労賞と産業功労賞、6個人に特別賞が上杉邦憲名誉会長と平山英三会長より伝達されました。なお、学校・学年は令和4年度のものであります。

☆教育文化功労者：梅津幸保氏(前置賜民俗学会会長)

☆産業功労者：増村力氏(前米沢商工会議所会頭)

☆スポーツ活動(陸上) 優秀賞：紺野稜真(こんのりょうま)さん(九里学園高等学校3年)

☆スポーツ活動(スキー) 奨励賞：清水広大(しみずこうだい)さん(米沢市立第六中学校3年)

(スキー) 奨励賞：遠藤なな(えんどうなな)さん(九里学園高等学校2年)

(スキー) 奨励賞：遠藤悠(えんどうゆう)さん(九里学園高等学校3年)

☆文化活動(作文) 奨励賞：田村理音(たむりいね)さん(米沢市立北部小学校5年)

(感想画) 奨励賞：吉田佳奈(よしだかな)さん(南陽市立漆山小学校3年)

<支部総会> これに先立ち、午後1時から同会場で令和5年度の支部総会が開催され、①令和4年度事業報告及び決算報告、②我妻榮記念館の事業報告及び決算報告、③理事、監事の改選(定時改選)(案)、④令和5年度事業計画(案)及び予算(案)、⑤令和5年度我妻榮記念館事業計画(案)及び予算(案)の5議案共に承認されました。

なお、理事30名のうち、19名が留任、11名が新任。監事2名のうち、1名が留任、1名が新任です。

米沢有為会
米沢支部だより

第 44 号

令和 6 年 1 月 15 日

発行者

(公社)米沢有為会米沢支部

支部長 中川 勝

米沢市金池5-2-25

☎ 0238-22-5111

団塊世代のノスタルジア



米沢有為会

監事 近野 久左エ門

私は昭和25年3月生まれ。いわゆる「団塊の世代」の尻尾に位置し、中学や高校は50人学級で、教室はすし詰め状態、どこへ行っても人で溢れているような日々でした。そんな時代環境でしたから、大学一年の時、集団生活への不安を意識することもなく、仙台興譲館寮に入寮しました。当時の寮長さんは伊藤和夫さん、他にも多士済々な顔触れが揃っていて、世間知らずで未熟な私は寮生活で揉まれながら、いろいろな体験をし、視野を広げることができたと思います。

それから50余年が経過した今日の社会状況は様変わりし、少子化は止まるところを知らず、子供の数は激減し、労働力不足で産業経済にも大きな影響が現れ、年金・医療・介護などの社会保障制度も厳しい局面を迎えています。このような状況が続けば、外国人を労働力として活用するだけでは済まなくなり、国力を維持するための政策として、より積極的に外国人を日本国民として受け入れていくことも必要になってくるのかもしれない。

米沢有為会においても、入寮希望者の減少、奨学金希望者の減少という課題に直面しており、理事の皆さんがその対策に知恵を絞っておられます。エアコン付きの個室で育ってきている現代の若者のニーズや奨学金制度を取り巻く状況の変化を踏まえて、大幅な見直しが求められています。今や「古き良き時代」の郷愁に浸っているばかりでは済まなくなってきたようです。

まちの話題

定時総会4年ぶり米沢で

この3年間コロナ禍でオンライン会議をしていた定時総会が、今年度はようやく4年ぶりに米沢で開催されました。

令和5年6月25日(日)、東京本部・支部や仙台支部などから集まった役員・会員たちが、伝国の杜で米沢支部の人たちと久しぶりに対面して会議を開きました。

総会では、『有為会会報』で提案されたように、①令和4年度事業・業務報告②同決算及び監査報告③令和5年度事業・業務計画④同予算⑤理事及び監事選任⑥定款変更の議案が承認されました。

今回は役員の改選年で、平山英三会長・加藤国雄副会長など12名の理事が重任、工藤美知尋・鈴木修2名の理事が新任。また、監事は2名とも交代し、近野久左エ門・松寄祐樹が加わりました。

文化講演会(講師 梅津幸保氏)



表彰式後、久方ぶりの教育文化功労者梅津幸保氏から「置賜の民俗文化伝承

と共に」と題してご講演をいただきました。

氏は長年置賜民俗学会や米沢前田慶次の会などの会長を歴任され、令和4年度斎藤茂吉文化賞を受賞されました。

講演では、①江戸時代から万世地区梓山に伝わる獅子踊りが、米沢市や山形県の無形民俗文化財に指定されたことや、保存会の子どもたちへの伝承活動、②上杉謙信が重用して景勝や直江兼続に伝え、戊辰戦争でも使われた火縄銃が、昭和36年以降「米沢藩古式砲術保存会稲富流砲術隊」として発砲演舞を行い、平成30年米沢市無形民俗文化財に指定されたこと、③明治9年初代山形県令三島通庸により工事が開始された栗子隧道が、明治14年明治天皇によって「萬世大路」の名を賜り、平成8年文化庁より「歴史の道百選」に選定され、令和2年山形県より「未来に伝える山形の宝」に登録されたこと、④草木塔は、置賜地方特有の民間信仰により建立された石像物で、各地で有形民俗文化財に指定されており、令和2年「米沢市の山と暮らしを伝える遺産群」草木塔と木流し」が一般社団法人日本森林学会から林業遺産に認定・登録されたことなどを話されました。

我妻榮没後50年・記念館開館30周年記念事業

令和4年我妻榮記念館は会館30周年を迎え、翌年は我妻榮没後50年の節目の年になりました。

そこで、米沢市名誉市民で文化勲章受章者の我妻榮先生をさらに広く知っていただくこと、記念事業実行委員会(伊藤和夫委員長)が発足しました。

まず、9月から11月にかけて我妻榮特別展が市立米沢図書館と我妻榮記念館で開催されました。

そして、先生の命日である令和5年10月21日(土)、生家の記念館前に建立された我妻榮銅像の除幕式が行われました。この銅像は、ちょうど50年前に米沢市出身の彫刻家桜井祐一氏が制作して、米沢興譲館高校で先生にご覧いただいた銅像の石膏型を用いて再铸造されたものです。

次に、当日は記念式典、講演、パネルディスカッション、法律相談会と多彩な記念行事が行われました。講演では、我妻榮先生の指導を受けた講師の新堂幸司氏が、「守一無二無三」民法学の研究に生涯をかけた我妻榮先生」と題して、「民法学の父」で「戦後復興の恩人」と称えられた先生のお人柄を紹介されました。

また、同記念館内の壁面には、先生が大正4年18歳の時第一高等学校在学中、親友の本田吉馬氏(後に米沢市議会議長)宛に、深い思いを述べた巻紙の手紙(縦18cm×横23.5cm)のレプリカが展示してあります。



我妻榮銅像除幕式

新しく会員になられた方々

(個人賛助会員)

氏名	
安部 徹	渡部 美由紀
加藤 英樹	阿部 好弘
増村 力	松本 栄
紺野 桂馬	丹野 陽
紺野 雄太	影山 敦司
齋藤 隆夫	安藤 隆則
鈴木 清隆	大木 佐知子
渡部 洋己	吉田 幸宏
鈴木 実	山科 勝
横山 千広	

リレー随想 ②③

思い出の寮祭

東北警備保障㈱
代表取締役社長

武田 誠一郎

私が東京興譲館寮に入寮したのは1990年4月でした。浪人時代のアパートを引き払う関係で中旬ぐらいだった記憶があります。当時1、2年生は相部屋でした。たまたま同じ理数科の友人が同じ時期に入寮したので、彼と相部屋となりました。当時はパブルがはじける前でしたので、世の中は今より華やかだった気がします。なので、寮生活という何となく旧世代の生活のイメージがありましたが、実際入寮してみると、いわゆる当時の今どきの大学生が住んでいる寮という感じで、夜までワイワイ楽しい感じでした。年に何回か寮内での飲み会があり、それはバイトで欠席してはいけないという規律があり、ほとんどの人が出席していました。上下関係もそれほど厳しくなく、どちらかというと、下級生のほうがおごってもらえる分だけ楽なような気がしました。自分が上級生になってその感じました。ただし、お酒の弱い私にとってはこの寮の飲み会はどこに座るか大事でした。お酒の強い先輩の隣になると、酔った勢いでガンガン飲ませてきます。当時はコンプラなどありませんので、当然吐くまで飲む。吐いても飲む感じでしたから、できるだけ、その席は上手に避けることが大事でした。

さて、そんな中、年に1度だけ女性を連れてこなければならぬ飲み会が寮祭でした。特に下級生はどれだけ女性を連れてこれるかによって、その時のヒエラルキーが決定します。私は彼女もいまして、人付き合っても上手なほうでしたので全く苦になりませんでした。が、そういうお誘いが苦手な方はいぶ苦労されていました。その寮祭の時には連れてきた女性と社交ダンスをするのが恒例で、そのためのレッスンも事前に先輩方から指導がありました。若い男同士が社交ダンスの練習なんてするとは当時でも中々ないことです。ある意味カルチャーショックでしたが、やってみると中々面白く、連れてくる女の子達も珍しがっていたような記憶があります。

それ以外にもマラソン大会や寮母さんとの旅行などの行事や諸先輩方や他校との交流など、寮にいなければ体験できなかったことがたくさんあり、非常にいい経験ができました。入寮するときはほんとに嫌でしたが、1年もすると楽しくてしょうがない寮でした。出入りも自由で門限もない。私の時代は女性を入れるのも自由でしたし、まさに最高のモラトリアム時代を過ごさせていたのだと感じておられます。今はどんな雰囲気なのかわかりませんが、きっと今でも楽しいモラトリアムを過ごせる場所なのではないでしょうか。



～ 活躍する会員紹介 ～ ②⑤

山形県立米沢興譲館高等学校
校長

曾根 伸之 さん



て、「世のために尽くさん」とする不易の教育精神を継承する今日の本校教育の大きな柱の一つとなっています。

Q3. 置賜地区の高等学校の課題についてお聞かせ下さい。

A3. 少子化の影響等により公立高校の定員充足率が年々低下しており、各高校において、中学生や保護者から理解され、地域社会から評価される学校づくりが一層求められています。同時に、それぞれの高校が教育課程の特色を生かし、時代の要請に即応しながら、意欲と自信をもって地域の未来を担っていける人材を数多く育てていくことが一層求められています。

Q4. これからの高校生に期待することはどんなことでしょうか。

A4. 高校時代は、多様な知識や技能を習得しながら自分らしさを求め、自由にそしてアクティブにさまざまな挑戦と試行錯誤のできる3年間です。異なる考え方や価値観にも積極的にかかわり、多くの人たちとの協働と共創を経験しつつ、未来の社会を担っていく自信と自覚を身につけていきたいものです。これをもとに、「解のない課題」にも主体的に向き合い、社会の一員として柔軟な対応力をもって貢献できる人になってほしいと願っています。

ありがとうございました。今後ますますのご活躍をご期待申し上げます。

Q1. 初めに、貴校の学校経営方針をお聞かせください。

A1. 「『興譲』の精神」(自他の生命を尊重する精神、己を磨き、誠を尽くす精神、世のために尽くす精神)のもと、高い志を持って、積極的に地域や社会に貢献していこうとする、次の時代を担う有為な人材の育成をめざしています。

Q2. 貴校の特色についてお聞かせください。

A2. 普通科(文系・理系、学年3クラス)と探究科(国際探究科・理数探究科、学年2クラス)のそれぞれに、多様な選択科目を備えた特色あるカリキュラムを設定しています。また、第IV期2年目となる文科省指定SSH(スーパーサイエンス・ハイスクール)事業、並びにユネスコスクールキャンディデート校の強みを生かしながら、高大連携と関係機関のご協力による専門性に優れた豊富な地域人材の教育活動への参画、そして時代のニーズに応える国際交流を推進し、一人ひとりの生徒が高い志と自己効力を醸成し、これからの社会に貢献できる資質と能力を身につけていけるよう教育活動を展開しています。中でも、全校生徒がそれぞれテーマを設定して取り組む探究型の課題研究は、自主自律の学びの姿勢を育

米沢有為会を 支援します



金子建設工業
代表取締役
金子 尚人
かね こ なお ひと

弊社は昭和20年に創業以来、土木・建築の専門会社またJ Rの仕事では県内外の人の足元を支える事業で地域に根付きながら、人と自然・環境との調和を最優先に考え、技術革新を組み合わせながら、持続可能で魅力ある街づくりに取り組んでまいりました。現在は置賜地域を中心に公共民間の土木建築、J R関連、住宅・マンションの建設、維持管理、改装改修、及び関連会社で倉庫や店舗の賃貸事業、碎石製造業、産業廃棄物処理業の事業を展開させて頂いております。長い間、たくさんの皆様にご用命お引き立てを頂いている事到大変感謝申し上げます。

これからも地域の特性や住民の声を聞き入れ、地域社会との連携を大事にし、信頼されるパートナーとして地域の繁栄に寄与していきたいと思っています。同時にITのスキルアップや自動化による効率向上、社員健康維持や働き方改革への対応を重視し、日々の地球温暖化対策にも微力ながら貢献してまいりたいと思います。

弊社は教育施設の建設において、

その重要性を認識し、山形大学施設をはじめ県内の高等学校や小中学校の建設事業、米沢市立図書館や屋内遊戯施設の建設にも参加しております。教育環境の整備は、地域社会の発展に欠かせない要素であり、地域の文化・知識や発育の拠点づくりになると 생각합니다。

また、教育は地域社会の基盤であり、有為な人材の育成は地域全体の発展に繋がります。これからも弊社は、建設技術分野における知識や経験を活かし、若手の成長を支える事により地域社会の発展に貢献してまいりたいと思います。

米沢有為会様が運営する数々の事業は、今の少子化や人口減少対策にも繋がる大事な事と理解しております。及ばずながら応援させて頂くと共に、その事業で素晴らしい人材が育成され、この地域を始め様々な地域や分野で活躍される事をご祈念いたします。



株式会社丸定
代表取締役社長
佐藤 良喜
さとう りょう きのぶ

弊社は、明治8年に初代が曲物折箱を営み始めて以来、148年に亘

り、包装一筋に歩んでまいりました。現在は、段ボールや紙器などの包装のみならず、プラスチック加工品、紙管、紙管容器など時代の流れと共にニーズや価値感に対応したトータルコンベネーションの提供により、県内はもとより広く東北・関東各地の皆様からご愛顧をいただいております。

弊社は、「買う身になって造ろうこの製品」を社是として、「創造と真心で未来(あした)を包む株式会社丸定」の会社使命のもとにお客様との連携を深めながら、包装技術の新しい価値の創造と革新に挑戦し、お客様の大切な商品の包装のお手伝いをさせて頂きながら、大切な商品の価値を高めるお手伝いをさせて頂きたくことを第一に事業活動を展開しております。

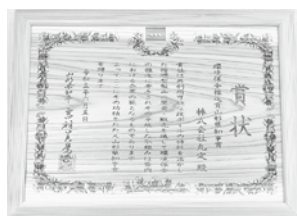
その成果として、令和5年度上期に、山形県内企業の環境への取り組みを表彰する大会「山形県環境保全推進賞」で最高位の県知事賞を受賞いたしました。段ボール製造事業を活かした自社製品の積極開発、廃段ボール・廃プラスチックのリサイクルシステム、ダンボールベッド等での防災教室やSDGsワークショップ開催などの地域共生、社内省エネ機器への切り替えなど、本業に直結した活動を評価いただきました。

また、令和5年度下期には、「山形エクセレントデザイン2023」で自社製品「フルーツボックス」

「ご／ラ・フランス」が準大賞を受賞いたしました。これは山形県内で企画・開発・生産されている優れたデザインの製品を選定・顕彰する県のコンペティションです。

これら2つの受賞を弊社従業員の「誇り」とし、今後より一層の精進を重ねたいと考えます。

自らに頼む。この自願の精神で常に地域への貢献と共生に励まれている米沢有為会様の活動と共に、地域の発展・繁栄に地元企業として寄与してまいります。



編集後記

☆現在NCVで東京・仙台興譲館寮の紹介動画が放映されており、何度か見ました。全室清潔感溢れる個室に、安い寮費で、栄養価の高い食事、同郷出身の先輩・後輩の交流や行事を通して、快適な学生生活を送っている姿が、学生インタビューから窺えます。将来への飛躍を期待しています。(手)